夕刊
# 磐城時報
二十日
福島縣平市鹿屋町十四
編輯兼發行 印刷人 岡田弘成
福島縣平市鹿屋町十四
印刷所 加納活版所
福島縣平市鹿屋町十四
發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

## 湯本溫泉復活工事 繼續か中止か
### けふ區會で決定 町民成行を注視

湯本溫泉復湯計劃は既報の如く四年前起工今日まで十一萬圓を投じて工事繼續中であるが、三百五十尺堀り下げた現在でも湯が湧出せず前途に暗影を認めるに至つた同町では坑底からボーリングを下ろして試驗する事になつたが十九日午後一時から町區聯合溫泉復活委員會を役場に開いた結果二十日午前十時から區會を招集溫泉復活に要した昭和十年以降の決算、十三年度豫算及び積立金處分の件を附議し溫泉復活工事を繼續するや否やを決定する事になつたが、一部反對派の人々は溫泉復活は全く絶望とまで傳へてゐるので區會の成行きを注目されてゐる。

## 小名濱の「東日本丸」 晴れの出港式
### 愈々秋刀魚漁に出漁

小名濱漁業組合が東北興業會社から借り受ける東日本丸は十九日神奈川縣三崎港を出港二十一日夕刻小名濱港にその英姿を現はす事になつたが、小名濱漁業組合では二十二日晴れの出港式を擧行し二十三日から秋刀魚漁に出帆する。

## 多門師團長 夫人から禮狀

去る十八日滿洲事變記念日當日市では青沼市長の名で當時の多門師團長房子夫人に謝電を發したが、これに對し夫人から左の如き禮狀が届いた。

拜啓　本日滿洲事變第七周年記念日に當りては御懇篤なる御謝電を賜はり感謝に堪へず謹みて御禮申上候　敬具

## ▲鮫川堰工事

石城郡鮫川堰の復活は總工費三十六萬圓餘で施行中を竣功漸く半ばを越えて時局による鐵材を初め諸用材料の暴騰に際會し約二十万圓を投じた水路工事後殆んど立往生の姿となり强いて完成の途を講ずるにしても同疏水を唯一の工業水利とする小名濱町に建設中の日素工場の進捗に伴はずこれが善後策には縣も會社側も頭を惱ましてゐたが、思案の結果は堰の水量八十五個の中十五個を日素に讓渡の條件で既工水路の擴張その他に會社側から二十万圓の支出方を交渉中であるが大工場をもつ日素にありても完全なる十五個の取水權を此の際取得して置くことが將來の爲とされ好接近を見てゐるので同計畫は實現されることになる模樣である。

## 長橋青年 鹿島香取參詣

市内長橋町青年團は二十四日、二十五日の兩日大バスで茨城縣鹿島神宮から千葉縣香取神宮、成田山に參詣出征軍人の武運長久を祈願し上京の上青年會館に一泊陸相官邸等を歷訪神社佛閣に參拜する。

## 平商の麻原教諭 富金山で戰傷

平商業學校教諭平市杉平出身兩角部隊准尉麻原吉五郎氏は富金山の戰鬪で名譽の戰傷を負つた旨通知があつた、同氏は草野村赤沼生れ昭和六年から平商業學校に勤め奉職中出征した人で、妻女とく（三九）さんが長女文子（十五）さんと留守してゐる。

## 蛭田浩君 名譽の戰死

上遠野村出身前田部隊輜重上等兵蛭田浩君、勿來町字九面出身同大友定一君は九月十三日九江附近の戰鬪で名譽の戰死を遂げた旨實家に通知があつた、蛭田君は上遠野村字川原生れで出征前まで平市白銀町電機業藤浪時康方に同居し同家から出征した人で妻ガク（二六）さんの間に長男幹夫（四ツ）次男鐵夫（一ツ）がある、蛭田君は藤浪時康氏の甥である。

## 平にスリ漢現はる 八幡神社の祭典に

好間村日曹小田炭礦坑夫馬橋庄市（二八）君は十八日夜八幡神社の祭禮に來て平市三丁目を通行中何者かに現金十六圓餘在中の墓口を掏り取られ平署に訴え出た。

## ▲石城梨品評會

石城郡農會では東京市場に石城梨の聲價を上ぐべく今九月中旬から來月上旬までの一ヶ月梨の出荷品評會を開催中であるが、果種は『長十郎』に限り同郡果樹組合聯合會の會員で同會の斡旋による東京市場出荷百箱以上（栽培出品の公平を期するため三回以上に分ける出荷）を單位とし審査の方法は最高値で取引されたるものゝ上位を七十點、出荷の量が最高位であるものに三十點の目安を以て成績優良者に賞狀と賞品を授與することになつてゐるが、本年は右共同出荷に對し商工省の補助四百圓を交付されたる等大馬力で奬勵してゐるから中央市場に石城梨の華々しさを一層止むることであらう。

## 巡査に嚙りつく 無錢飲食男檢擧

内郷村大字宮字平太郎炭礦坑夫田所三次郎（三九）は十七日午後八時頃宮の富士食堂で酒六本を飲み二圓五十錢を請求されるや暴行を働き器物を毀棄、取靜めんとした家人の顏面に喰ひつき重傷を負はせた、急報により宮請願巡査が逮捕に向つた處巡査の手に嚙みつき負傷せしめ平署に留置中であるが、同人は三月中にも窃盜罪で處罰されてゐる。

## ▲伊藤助役出張

平市伊藤助役は酒井課長を帶同二十一日から三日間新潟市に開かれる全國市長會議に出席のため出張した。

## 飛行練習生採用

十三年度後期甲種飛行豫科練習生の採用試驗は横須賀で行つたが本郡下からは四倉町の鈴木千春君が合格した旨通知があつた。

## 井上家で團体に寄附

故井上茂作氏の遺志により嗣子貞治郎氏は二十日左の如く公共團體に寄附した。

| | |
|---|---|
| 三十圓 | 小學校基本財産 |
| 三十圓 | 平市軍事後援會 |
| 二十圓 | 平市社會事業助成金 |
| 二十圓 | 磐城訓盲院 |
| 二十圓 | 平在鄕軍人分會 |
| 二十圓 | 平國防婦人會 |
| 二十圓 | 刑事協會平支部 |
| 二十圓 | 第三小學校兒童保護者會 |
| 二十圓 | 五丁目青年團 |

## 炭礦の通帳で詐欺

磐崎村上湯長谷磐炭長倉坑坑夫吉田春治（二三）は同僚の横井一郎の物品請求簿を預つたのを奇貨とし六圓五十四錢記入の右通帳を以て炭礦糧食部で現金五圓と引換え五十四錢しか殘つてゐない通帳を十一圓に改竄し同炭礦販賣部泉屋事田子福治方から九圓分の物品を詐取した事發覺二十日平署に捕はれた。

## 學校衛生視察研究會

縣主催の本年度學校衛生視察研究會は十月十日から縣下各地で開催されるが、平市は十一月二十八日平第二校で、郡下は二十九日湯本町入山校で開催される。尙ほ中等學校は十一月三十日磐中で開催される。

## 磐炭の倉庫から盜む

内郷村磐炭運搬夫弓野孟男（二七）同高萩傳平（二五）外二名は共謀し去る五月中同礦町田坑倉庫からケーブル線三百匁を窃取した外八月中同所から被覆鉛二貫匁、銅線二貫匁を窃取し同村古物商高橋養七方に賣却し遊興費に當てた事發覺平署に檢擧された。

## ▲伊藤村長再選

飯野村長伊藤淺之助氏は來る二十六日任期滿了となるので十九日村會を開き選擧の結果伊藤氏滿場一致再選した。

## ▲平商級長選擧

平商業校の本年度後期級長選擧は二十六日行ふ。

## 決勝戰で人絹惜敗

既報、濱通りを代表して縣健康保險課主催の第六回被保險者軟式野球大會に出場した錦村昭和人絹チームは福島製作所を十二對五で破り會津代表廣田工場と覇を爭つたが二對一で惜敗した

## 軟式野球綴驛勝つ

福島民友新聞平支社主催縣下軟式野球石城郡豫選大會は十八日磐中、平商球場で擧行左の如く綴驛用品チーム優勝した。

勿來 3—0 古河
湯本 5—1 磐炭製作
磐炭 7—2 四倉セメン
綴驛 5—1 日曹
綴用品 3—0 磐炭
（十四回迄延長戰）
湯本 2—1 勿來

決勝戰

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 湯本 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 綴用品 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 4—0 |

徒弟募集
加納活版所

## ▲味郷のおでん

平市三田小路味郷では二十日からおでん、茶飯を初めたが、酒、ビールも奉仕的安値で提供好評を博してゐる

## 木村淳氏 南町に移轉

平町六町目外科醫木村淳氏は市内南町故萩原申八氏の新築邸宅を二萬圓で買收近く移轉し開業する。

## 【活動たより】

聚樂館二十二日替り
一、エノケン江戸つ子三太
一、花束の夢（神田）
一、太洋寵兒（藤山）
本週入場料二十錢、十錢優待券は十錢本週限り

御婚禮御着附
パーマネント
ウエーブ
和洋結髮
オゾン美顔術
御染髮洗毛
御爪術
平市驛前
水野化粧院
電話（六七八―營業所　五二五―自宅）

冬品會の第一線に立つ
子帽折中＝子帽供子
列陳富豐……型新嶄
ヤルツ
電一四〇

三百年の歴史を有する
家傳靈藥
相馬ハンサキ
消食散
一名かげの藥
代理店　平市大町　丸龜商店
電話一三三番

ラヂオの故障は
放送局指定相談所に
ラヂオの故障の多い季節になりました。
修理は測定裝置技術完備の弊店に
放送局指定ラヂオ相談所
HK受信機配給所
富永ラヂオ店
平驛前
電話四九六番

一、煉炭
一、豆炭
各種特價販賣
薪炭大暴騰ノ折カラ御家庭ノ經濟燃料トシテ御勵メ致シマス
平驛前
阿部石炭商店
電話三十七番

吸入用酸素
度%純99
度量衡
モノサシ
ハカリ
マス
計量器
体溫器
寒暖計
回秤ノ取緒・錘糸・修覆致シマス
回寫眞機材料一式
關内藥局
電話四〇番

産科
婦人科
外科
藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　内木宗八
藥劑師　大岩俊雄
入院隨意
病室完備
平市新川町十九
木村病院
電話一六四番
◇看護婦募集

夜間診療
胃腸
内科
胃腸病科
性病
花柳病科
性病科
泌尿器病科
皮膚科
肛門病科
專門
松村胃腸性病科醫院
平市南町（電一〇七番）

味郷のサービスデー
本日よりおでん茶めしを初めました。
毎月廿日はおひいき御禮としてお酒とビールをお勉め致します。
サロポロビール　一本卅八錢
白菊正宗　一本十八錢
君德　一本廿八錢
松竹梅　一本五十錢
お肴は…燒鳥…トンカツ
平市三田小路（三丁目裏）
味郷（みさと）


平消防組頭井上茂作殿豫而病氣中の處藥石効なく昨十五日午前三時二十分逝去致され候に付消防葬を以て左記の通り告別式執行可致此段及御通知候

一、日時　九月二十一日午後一時
一、式場　平市第三小學校講堂

昭和十三年九月十六日

平消防組

葬儀委員長　關内正一
副組頭　青沼鋒太郎
平市長　本田勇治郎
平警察署長　櫛田榮太郎
消防顧問總代

父茂作儀永々病氣療養中の處藥石効無く本日午前三時二十分死去致候間生前の御厚誼を拜謝し此段謹告仕候

追而葬送の儀は消防葬を以て來る二十一日午後一時より平市第三小學校講堂に於て告別式執行の上市内大寶寺へ埋葬可仕候尚當日午前十一時迄は自宅に於て御弔問拜受可仕候取混み中御通知洩も可有之本廣告を以て御通知に代へ申候間御容赦被下度候

昭和十三年九月十五日

福島縣平市五町目

嗣子　井上貞治郎
親戚總代　中野一衛
仝　中川良助
仝　中野惠次
友人總代　緒方惟一郎
青沼鋒太郎
安島重三郎
佐藤庄太郎
木村清治
星　鈴木辰三郎
諸橋久太郎
三井榮一郎
柏原幸次郎


菅波齒科醫院
四倉本町
電話一五四番